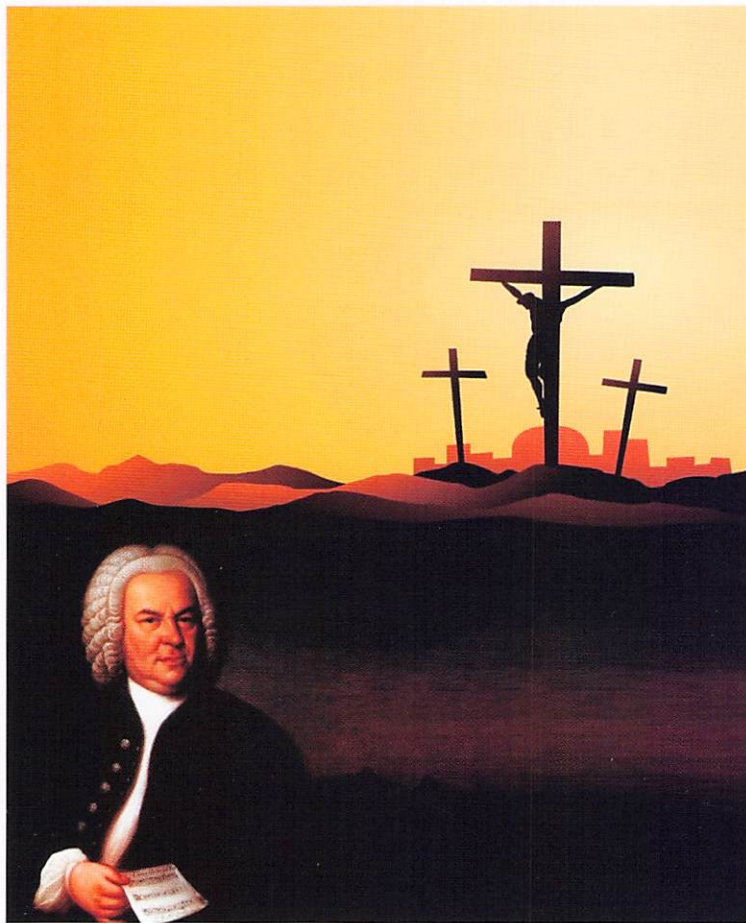


J.S. バッハ

# マタイ受難曲

Matthäus Passion BWV244



2015 年 4 月 19 日(日)  
アクトシティ浜松 中ホール

主催 : 浜松バッハ研究会      共催 : 豊橋バッハアンサンブル  
後援 : 静岡県 (公財)静岡県文化財団 浜松市 (公財)浜松市文化振興財団  
豊橋市 (公財)豊橋文化振興財団 静岡県合唱連盟 浜松市合唱連盟  
(公財)浜松交響楽団 浜松ドイツ文化交流協会 豊橋日独協会  
静岡新聞社・静岡放送 中日新聞東海本社 K-mix FM Haro!

## 浜松バッハ研究会創立 30 周年記念演奏会にあたってご挨拶

本日は浜松バッハ研究会創立30周年記念・豊橋バッハアンサンブル創立20周年記念「マタイ受難曲」演奏会にご来場いただき、誠に有難うございます。今日の日を迎えることができましたのも、ひとえに日頃より私達の活動を支えて下さっている皆様のおかげです。会員一同心から御礼申し上げます。

1973年から始まった浜松におけるバッハ演奏の歴史をひもときますと、本年は「マタイ受難曲」浜松初演から40年の年にあたります。しかし当初の活動は10年を経ずして衰退し、バッハ生誕300年であった1985年には浜松でのバッハ演奏の灯は消滅寸前でした。そこで有志に呼びかけ、急ごしらえではありましたが年末に「クリスマスオラトリオ」を演奏したのが今日の浜松バッハ研究会の礎となりました。その後5年ごとに大きな節目を迎えることとなります。1990年には現常任指揮者の三澤洋史先生との出会い、1995年には創立10周年記念「マタイ受難曲」への取り組み、2000年暮れから2001年にかけてはバッハ没後250年記念のドイツ演奏旅行を行いました。世紀の変わり目を私達はバッハの聖地で迎えることができました。その後20周年、25周年と順調に推移し、本日の30周年記念演奏会を迎えたわけでございます。

さて、「マタイ受難曲」は「ミサ曲口短調」となる人類史上最高の音楽遺産と称されていますが、三つの合唱群と二つの管弦楽群を必要とし、上演には2時間半以上を要するという膨大な規模の作品です。私どもの前身団体での演奏も含めると今回が浜松で5回目の「マタイ」となりますが、活動の節目節目に取り組んできた私達の精神的バックボーンともいえる曲です。今回の公演のために私達は2年半の時間をかけてまいりましたし、独唱者にも最高の方々をお招きしています。

総勢140名の私達の、心からの「マタイ」を、どうぞ最後までご鑑賞下さい。

バッハ生誕 330 年、マタイ受難曲初演から 288 年、バッハ没後 265 年の年に  
浜松バッハ研究会代表：河野周平 豊橋バッハアンサンブル代表：安井研一



### 上演曲目

ヨハン・セバスチャン・バッハ作曲

## マタイ受難曲 BWV244

Passio D.N.J.C. secundum Matthaeum

(福音史家マタイによるわれらの主イエス・キリストの受難)

テキスト: マタイによる福音書26～27節

自由詞: ヘンリーツイ (通称ピカンダー)

### 第 1 部

No.1～No.29

休憩(15分)

### 第 2 部

No.30～No.68

(終演予定 18:00)

## 出演者プロフィール



### 指揮・チェンバロ：三澤 洋史（みさわ ひろふみ）

群馬県出身。国立音楽大学声楽科卒業後、指揮に転向。ベルリン芸術大学指揮科を首席で卒業。1999年から2003年までの5年間、「パイロイト音楽祭」で、祝祭合唱団指導スタッフの一員として従事。2001年より、新国立劇場合唱団指揮者をつとめ、同合唱団を世界でもトップ・レベルと言われるまでに鍛え上げた。2011年、文化庁在外研修員として、ミラノ・スカラ座において、合唱指揮者ブルーノ・カゾーニ氏のもとでスカラ座合唱団の音楽作りを研修。帰国後は、新国立劇場におけるイタリア・オペラの音楽作りに大いに影響を与えている。バッハの音楽に深く傾倒しており、マタイ、ヨハネ両受難曲、ミサ曲口短調など全て暗譜でレパートリーに有する。2000年暮れから2001年初めにかけての浜松バッハ研究会ドイツ演奏旅行では、エアフルト、ハレでのミサ曲口短調成功に加え、ライプツィヒ聖トマス教会の新年音楽礼拝を聖トマス教会聖歌隊に代わり務めた。2006年、自らのバッハ演奏のホームグラウンドとして東京バロック・スコラーズを立ち上げ、「21世紀のバッハ」をめざして多角的な活動を行っている。

現在、新国立劇場合唱団指揮者、東京バロックスコラーズ音楽監督、浜松バッハ研究会、志木第九の会、名古屋モーツァルト200合唱団常任指揮者。



### 福音史家・テノール独唱：畑 儀文（はた よしふみ）

兵庫県篠山市生まれ。大阪音楽大学大学院修了。1979年大阪にて、小林道夫氏の伴奏による初リサイタルを行う。以後テノールソリストとして、ドレスデン国立歌劇場管弦楽団ホルン奏者ペーター・ダム氏との共演、イェルク・デームス氏の伴奏による数多くのリサイタル等で大きな成果をおさめた。1991年オランダアムステルダムにおいて、バロック歌手として高名なマックス・ファン・エグmont氏のもとで研鑽を積む。以後オランダ各地において、受難週には、エヴァンゲリストとして招かれ、近年はドイツ・ライプツィヒにおいてバッハ作品のソロを務める。また1993年～1999年にかけて、シューベルト歌曲全曲演奏を成し遂げ国内外で話題を集めた。「大阪文化祭本賞」「咲くやこの花賞」「大阪府民劇場賞」「坂井時忠音楽賞」「兵庫県芸術奨励賞」「兵庫県文化賞」等多数の賞を受賞。丹波の森国際音楽祭シューベルティアードたんば音楽監督、関西フィルハーモニー合唱団コア・マイスター、京都女子大学非常勤講師。



### イエス：大森 いちえい（おおもり いちえい）

昭和音楽大学声楽科首席卒業。国立音楽大学大学院音楽研究科声楽専攻（オペラ）修了。

二期会オペラスタジオ第36期研究生修了。1990年大学院修了

オペラ『ドン・ジョヴァンニ』でオペラデビュー。その後『フィガロの結婚』『椿姫』などに出演。これらのオペラレパートリーの他にも『メサイア』『レクイエム』バッハの『カンタータ』『ミサ』『受難曲』、更には日本歌曲のソリストとしても幅広いレパートリーを持つ。サイトウキネンフェスティバルでは、『マタイ受難曲』のペテロ及び司祭役で、小澤征爾、ジョン・マーク・エインズリー、トーマス・クヴァストホフ、ナタリー・シュトゥツマンと共演し、CDも録音。2002年には、高田三郎作曲『無声慟哭』で、飯森範親、東京交響楽団とバリトンソロ共演、CD録音。中村健、桑原妙子、仁田ちさ、太田実、シュテファン・アルトナー、白石卓也の各氏に師事。



### ソプラノ独唱：國光 ともこ（くにみつ ともこ）

武蔵野音楽大学卒業、愛知県立芸術大学大学院修了。新国立劇場オペラ研修所を経て、文化庁新進芸術家海外派遣制度在外研修員として渡伊。第12回日本モーツァルト音楽コンクール第1位、日本モーツァルト音楽大賞選考会2005大賞、第3回東京音楽コンクール第2位ほか受賞。オペラに於いては『フィガロの結婚』『オルフェオとエウリディーチェ』『ペレアスとメリザンド』『ばらの騎士』『タンホイザー』『パルジファル』などで新国立劇場に出演を重ねるほか、バッハ『マタイ受難曲』『ヨハネ受難曲』、モーツァルト『レクイエム』、ヴェルディ『レクイエム』などオラトリオや交響曲でオーケストラと共演コンサートソリストとしても活躍している。浜松バッハ研究会とは2010年の『メサイア』、2012年の『ミサ曲口短調』以来、三度目の共演である。二期会会員。



### アルト独唱：三輪 陽子（みわ ようこ）

愛知県立芸術大学音楽学部声楽専攻卒業。同大学院音楽研究科声楽専攻修了。第5回国際ワーグナー歌唱コンクール派遣対象者国内オーディション最優秀賞と特別賞を受賞。平成20年度新進芸術家海外派遣制度在外研修員としてイタリアとオーストリアに留学。新国立劇場オペラ公演で、「カヴァレリアルスティカーナ」のルチア、「西部の娘」のウォークル、「ワルキューレ」のシュヴェルトライテ、「エレクトラ」の下女2、「影のない女」の生まれざる子供の声などを演じる。また同劇場の鑑賞教室では「蝶々夫人」のスズキを演じ、ピロードのようなコントラアルトの響きを持つ希少なメゾソプラノとして好評を博す。宗教曲の分野ではバッハ『ミサ曲口短調』『ヨハネ受難曲』、ヘンデル『メサイア』、モーツァルト『ミサ・プレービス』『戴冠ミサ』『ハ短調ミサ』『レクイエム』、ロッシニ『小荘厳ミサ』、ヴェルディ『レクイエム』、ドヴォルジャーク『スターバトマーテル』などにアルトソロとして出演している。浜松バッハ研究会ヴォイストレーナー、二期会会員。



**バス独唱・ペテロ・大祭司・ピラト：塩入 功司 (しおいり こうじ)**

洗足学園大学音楽学部声楽科卒業。同大学院音楽研究科声楽専攻修了。二期会オペラスタジオ第43期マスタークラス修了、「優秀賞」受賞。第2回「万里の長城杯国際音楽コンクール」声楽一般の部A第3位。第39回イタリア声楽コンクールソプラノ賞・バリトン特賞受賞。これまでに、バッハ「ミサ曲口短調」、「ヨハネ受難曲」、ベートーヴェン「第九」、宮城道雄「日蓮」等のソリストを務める。オペラでは「コシ・ファン・トゥッテ」(グリエルモ)、「魔笛」(パパゲーノ、モノスタス)、「蝶々夫人」(神官、役人)、「カルメン」(モラレス)、ヤナーチェク「死者の家から」(鍛冶屋の囚人、炊事番の囚人)、ヴェルディ「マクベス」(伝令)、「椿姫」(ドゥフォーール男爵)、「レオノーレ」(ドン・フェルナンド)、三木稔「じょうりり」(言次)、レオンカヴァッロ「道化師」(シルヴィオ)等に出演。二期会会員。



**コンサート・ミストレス：北川 靖子 (きたがわ きよこ)**

W. シュタフォンハーゲン教授に師事。東京藝術大学卒業。1971年、オーストリア国立ウィーン音楽大学入学、ヴァイオリンを F.サモヒール教授に、室内楽を F.ホレチェック教授に師事。1975年、ウィーン音楽大学を全教授一致の最優秀で卒業。ザルツブルク・ミラベル宮殿、東京でリサイタル。1976年、ハンブルク交響楽団に入団、コンサートミストレスに就任。1981年、ハンブルク市文化局主催コンサートでリサイタル。1985年12月～91年12月、姉・北川暁子と25回の「ドウオのタベ」を開催。1987年、東京でリサイタル。1989年、北川暁子、千本博愛と「セルヴェトリオ」を結成、以後毎年演奏会を開催。1992年以降は北川暁子との「ソナタのタベ」を毎年開催している。現在、2001年11月に高松に設立された瀬戸フィルハーモニー交響楽団コンサートミストレス。浜松バッハ研究会・管弦楽団には1985年の創立以来、ほとんどの演奏会に参加。



**オルガン：花井 淑 (はない とし)**

三重県桑名市生まれ。名古屋音楽大学音楽学部器楽科ピアノ専攻卒業。同大学卒業演奏会、三重県新人演奏会に出演。大学在学中より名古屋・カトリック五反城教会に於いてパイプオルガンの勉強を始め、オルガンを住山玖爾子、本田七瀬、故 F. ボーンの諸氏に師事。また、Z. サットマリ、故 A. シェーンシュテット、H. フォーゲルの諸氏によるオルガン・マスタークラスに参加。1982年～1986年、名古屋音楽大学嘱託研究員を経て、現在、カトリック五反城教会オルガニスト、五反城教会オルガニスト養成コース講師。東京福祉大学非常勤講師。日本オルガニスト協会、日本オルガン研究会、日本リードオルガン協会、立教大学教会音楽研究所友の会、名古屋バロック音楽協会各会員。ソリスト及び通奏低音奏者として活躍中。2000年10月、岐阜県民ふれあい会館サランカホールに於いて、故高円宮殿下、同妃殿下のホールご視察の際には御前演奏をした。また、2000年暮れから2001年初頭にかけて「浜松バッハ研究会」ドイツ演奏旅行にオルガニストとして同行し、ライブツィヒ・聖トーマス教会の新年音楽礼拝で演奏した。三重県桑名市在住。

**ヴィオラ・ダ・ガンバ独奏 (第 34,35, 65, 66 曲)：櫻井 茂**

学習院大学及び東京藝術大学卒業。コントラバスを江口朝彦、ヴィオラ・ダ・ガンバを大橋敏成、ローレンス・ドレイフスの各氏に師事。また、芸大バッハ・カンタータ・クラブにおいて小林道夫氏の薫陶を受ける。独奏者として国内各地及びイギリス、アイルランド、ノルウェー、アメリカ、韓国等で活動。ヴィオローネ奏者としてはバッハ・コレギウム・ジャパン等の古楽アンサンブルに参加。東京藝大管弦楽研究部及び高知大学非常勤講師を経て、上野学園大学准教授。延世大学(ソウル)音楽研究所古楽専門課程特別招聘教授。

**リコーダー I (第 19 曲)：長瀬 正典**

東京藝術大学音楽学部器楽科卒業、静岡大学大学院教育学研究科修士課程修了。大学在学中に全日本リコーダーコンテストソロ部門第1位入賞。サントリーホールデビューコンサートを皮切りに、国内外におけるコンサート活動、講習会やコンクール審査員、ワークショップを展開中。現在、静岡大学教育学部、常葉大学短期大学部音楽科、浜松学芸高等学校芸術科音楽課程、各非常勤講師。吉沢実主宰リコーダーアンサンブル La Stradaメンバー。リコーダーを中川友彦、矢沢千宜、吉沢実の各氏に師事。

**リコーダー II (第 19 曲)：桐畑 奈央**

静岡県浜松市出身。東京藝術大学音楽学部器楽科古楽科リコーダー専攻卒業。リコーダーを山岡重治、太田光子、古楽アンサンブルを大塚直哉、福澤宏の各氏に師事。小学生から全日本リコーダーコンテストに6回出場し金賞を授賞。現在浜松に拠点を置き、東京と浜松中心にソロでの活動、指導のほか、デュオユニット「Otonoka」、リコーダーアンサンブル「ラ・ルベルティーナ」のメンバーとしても活動している。静岡県西部のリコーダーコンテストで審査員を務める。

**管弦楽団内独奏者**

- チェロ独奏 (聖書句通奏低音): 西村美菜子
- オーボエ独奏 (第20曲): 大橋 弥生
- ヴァイオリン独奏 (第42曲): 小澤 規子
- フルート独奏 (第49曲): 木村伊都子

**合唱団内独唱者**

- ユダ: 河野 周平
- 偽証者 I & II: 鈴木 理恵 丹羽 哲也
- 第1の女 & 第2の女: 丹羽多美子 細倉ゆずる
- 祭司長 I & II: 土川 幸一 松本 有三
- ピラトの妻: 早川 美香

## 浜松バッハ研究会管弦楽団

浜松交響楽団、カペラ・アカデミカ、ソナス・アンサンブル、掛川市民オーケストラなどから、バッハおよびバロック音楽をこよなく愛する有志が集いバッハ研究会公演の度に組織されている。また浜松フィルハーモニー管弦楽団やアンサンブルムジーク浜松などから専門家を招聘し、レベルの高いアンサンブルで好評を得ている。マタイ受難曲の演奏には二つの管弦楽群を必要とするため、今回は総勢44名のバロック音楽としては異例とも言える大編成アンサンブルを構成している。

	管弦楽Ⅰ		管弦楽Ⅱ	
第1ヴァイオリン	北川 靖子	中村 尚子	小澤 規子	松嶋 朗生
	中林 尚之	木内麻希子	小島 多恵	田邑 利香
第2ヴァイオリン	疋田 清香	土屋 里奈	長谷川 悠	北川 瑞季
	篠田侑香里	東儀 温	小野 弘達	中山いずみ
ヴィオラ	五家 和夫	小林はる奈	小林 勝	波多野逸郎
	森下香菜絵		浅田 仁志	
チェロ	西村美菜子	神農 清志	沖佐知江	小野 祐子
	中山 大輔			
コントラバス	田邑 元一	黒田 充洋		
フルート	木村伊都子	加藤 暁奈	続 真樹	新井 明
リコーダー	長瀬 正典	桐畑 奈央		
オーボエ	大橋 弥生	村瀬 正巳	牧野早央里	市藤さくら
ファゴット	曾布川利貞		高木 麻衣	
		ヴィオラ・ダ・ガンバ	櫻井 茂	
		オルガン	花井 淑	

## 浜松少年少女合唱団

浜松少年少女合唱団は、少年少女ならではの澄んだ響きと鋭い感性を磨きながら、合唱を通して音楽の美しさを味わい、楽しい雰囲気の中で豊かな人間性と美しい心を養うことを目的として1998年結成され今年で16年目を迎えます。定期練習は週1回、土曜日の夕方に歌うことが大好きな小中高校生が集まり楽しく活動しています。年間のメインコンサートは、毎年春にアクティシティ浜松中ホールで開催される定期演奏会ですが、クリスマスコンサート、各種コンサート、コンクールにも出演しています。また、国際交流事業として2000年、2006年、2012年にドイツの教会において交流公演を行い、貴重な経験を重ねております。ホームページ：<http://homepage2.nifty.com/HamamatsuShonenSyjo/>

- ・音楽監督・指揮：岸 信介(全日本合唱連盟理事長)
- ・代表・指揮：伊熊 旬子
- ・ピアニスト：渡邊 渚
- ・理事長：吉田真喜子
- ・指導スタッフ：新井 陽子・石川 真弓

岡野みちる	黒田 瑠可	滝川加奈子	森木 紗良	川合 初花
西野 萌海	津倉あゆか	原田 佳音	松本 珠実	丸山 愛里
宮本 礼	西尾安祐美	稲葉 彩華	大橋 若菜	齋藤 和奏
鈴木 美怜	青木彩優花	川合 譲葉	西野 達洸	林 桃子
星野 友基	瀬下 うた	森木 桃	志賀 和湖	細田 琴乃
松本 侑子	丸山 美羽	神谷 成秀	丸山 蒔	飯田 春菜
杉山 愛実	丸山 優花			



## 浜松バッハ研究会・合唱団

バッハ生誕300周年の1985年に結成され、マタイ受難曲、ヨハネ受難曲、口短調ミサ曲などの大作や、クリスマス・オラトリオ、カンタータ、モテットなどを取り上げ管弦楽団と共に上演している。2000年にドイツ演奏旅行を行いライブツィヒの聖トーマス教会で演奏した。常任指揮者として我が国バッハ演奏の権威である新国立劇場指揮者の三澤洋史氏を招き、バッハの音楽を深く学びつつその魅力を多くの皆様にお伝えすべく、姉妹団体である豊橋バッハアンサンブルと共に活動を続けている。

- ・常任指揮者：三澤 洋史
- ・練習指揮者：早川 美香
- ・ヴォイストレーナー：三輪 陽子
- ・ピアノ伴奏者：宮本いずみ

## 豊橋バッハアンサンブル

バッハを歌いたい、だけど毎週浜松まで出かけるのは無理…という豊橋在住の人達が集まり、1994年8月にできた合唱団が豊橋バッハアンサンブルで、いわば浜松バッハ研究会の分身。毎週豊橋で練習し、三澤先生の練習があるときは、浜松に出かけて、浜松バッハ研究会と一緒に参加している。

- ・練習指揮者：河野 周平
- ・ピアノ伴奏者：高木 克子

### 合唱メンバー

合唱 I ソプラノ	金子ますみ	河合 良子	瀨瀨 祐子	小林 京子	白井登枝江
	中村 修子	丹羽多美子	松岡 葉子	三浦 敦子	三宅ゆりの
合唱 II ソプラノ	伊津野泰子	今村 陽子	川瀬 綾子	柴田 智子	土川さち子
	並木 佳子	早川 美香	松川 美子	村上 明子	吉井 康子
合唱 I アルト	木内 淳子	小林 益世	立花 澄江	長谷川公子	細倉ゆずる
	松月 浩子	馬淵 京子	森田 啓子	山田 溪人	山田 智子
	山田セキ子				
合唱 II アルト	渥美 法子	安藤美津恵	金丸 則子	鬼頭 計枝	鈴木 理恵
	富田 康江	浪崎 加代	彦坂 克美	溝口 和美	
合唱 I テノール	伊津野真一	川口 強	鴻巣 学	伴野 勤	平野 好道
合唱 II テノール	柴原 貞幸	鈴木 洋一	丹羽 哲也	村上 裕二	
合唱 I バス	石津 千秋	大村 忠宏	河野 周平	木村 憲二	原口 直樹
	松本 有三	宮 秀雄	安井 研一	山中 進	
合唱 II バス	生駒 修治	磯貝 光善	駒沢 真司	土川 幸一	富田 充
	野坂 陽一	山田 和典	横山 茂		

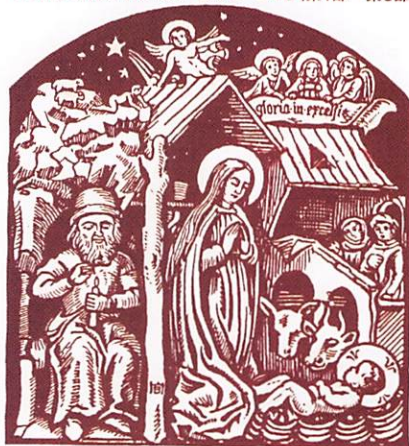
## 演奏会スタッフ

- ステージ・マネージャー：大石 泰由
- 伊津野莉々子 伊津野美波 黒田 浩子
- 鈴木瑠美子 宮森 芳美 秋山恵美子
- 字幕制作・操作：萩野 潔
- ビデオ撮影：志村 憲宏
- フロア・マネージャー：河野 真剛
- 長谷川明子 長谷川正仁 亀坂 美月
- 伊藤紀代美 前田 知子 金子 恒江
- 録音：福本 信夫
- 河野 善子

J.S.Bach生誕300年記念公演

## クリスマス オラトリオ

Weihnachtsoratorium BWV 248 (第1部～第3部)



指揮 山本 賢子・酒井 美知江・庄光寺 賢・渡部 成哉  
 豊橋バッハ祝祭合唱団・管弦楽団  
 指揮 河野 周平 司音 北川 清子(豊橋バッハ祝祭合唱団・管弦楽団)

1985年12月26日(木) 19時開演  
 遠州栄光教会(住吉・せいれい・病院西)  
 入場料 一般 1500円 学生 1000円

主催：浜松バッハ祝祭合唱団・管弦楽団(問い合わせ先 05358-6-5584 河野)



左は 1985 年のバッハ年、浜松バッハ研究会再興時の演奏会チラシ。  
 上は 2001 年、世紀の変り目を実施したドイツ演奏旅行の様様。  
 まさに大バッハが礼拝の演奏を繰り広げていたライブツィヒ聖トーマス教会の  
 聖歌隊席で新年のカンタータを歌った時の写真。  
 現在の聖トーマス教会カントール、ピラー氏とヴォルフ牧師から祝福を受ける  
 三澤洋史率いる浜松バッハ研究会合唱団・管弦楽団。

## 静 寂

三澤洋史

この原稿を書いている今日（3月29日）は、復活祭一週間前の「枝の主日」といわれる日曜日だ。僕は、昨年  
から関口教会（東京カテドラル）聖歌隊指揮者となっていて、今朝のミサでも指揮してきた。

枝の主日では、ミサの前に特別に枝の行列がある。司祭や信者達が教会の外からシュロの枝を掲げて歌いながら  
聖堂内に行進してきてミサが始まる。イエスが捕らえられて十字架にかかる前に、熱狂的な民衆に取り巻かれなが  
らエルサレム市内に入ってきた状態を再現しようとしている。

「ホザンナ、ホザンナ、ホザンナ！神から来られた方に賛美、天には神にホザンナ！」

指揮しながら、僕は突然胸の奥から熱く溢れ出るものを感じた。涙が出そうになるのを必死でこらえながら指揮  
を続けた。それは悲しいとか嬉しいとかいう感情を超えたものである。僕は「イエスのエルサレム入城という真実」  
に、いきなり触れたのだ。

僕は思った。イエスがエルサレムに入りさえしなければ、あのような死に方をしないで済んだだろう。しかし、  
イエスはそれを知っていて、あえてエルサレムに入城していったのだ。

僕にとって何度目かの「マタイ受難曲」の演奏会がやってくる。最初の頃は、自分が暗譜で全曲を指揮すること  
で、勝手にひとりよがりの達成感を得ていたが、最近はそのようなことはもうどうでもよくなった。それよりも今は、  
なるべく冷静になって、受難のドラマを表現し、丁寧に個々の場面を「描き切る」ことを心がけている。群衆の合  
唱はなるべく激しく、憎悪に満ち、あざけりに満ちて表現されなければならない。それは、その憎悪のまっただな  
かに「イエスの静寂」を描き出したいと思うからだ。

いつからだろう。受難劇の間中、ずっと通奏低音のように流れている「静寂」に気がついたのは？そしてそれが  
イエスその人から発しているものであることに気がついたのは？裁判でどんなにいわれなきひどい証言を聞いて  
も、ひとことも言い訳しなかったイエス。手足に釘が打ち込まれ、自分をぶら下げる十字架が立てられ、その十字  
架の元でユダヤ人達がののしりの叫び声を上げて、イエスの回りに支配していた不思議ともいえる静寂。

そしてイエスは息を引き取る。地震が起こり神殿の幕が上から下までまっぶたつに裂ける。イエスは墓に葬られ、  
全てが終わったかに見えた。その喪失感・・・しかし・・・これで終わるはずがない・・・この静寂には意味がある  
のではないかと・・・それは、むしろ・・・なにかの始まりの予感なのではないかと・・・それは何？

そうしたイエスの「静寂」を、僕は、予期せぬ所、すなわち「枝の主日」の行列の中に、突然啓示のようにあり  
ありと見たのだ。王として熱狂的にあがめられる中心にしながら、まるで外界から完全にバリアーで隔離されたか  
のような孤独の中にいるイエス。その瞳には、自分を待ち構えている運命を知り尽くし、それを受け入れようとす  
る決意があらわれていた。それでいて、どこまでもまっすぐでやさしくて、すべてを赦しているイエスは、そのま  
なざしからも、全身からも絶対的な「静寂」を放出しているのだ。

今、僕には感じられる。神が僕に向かって、  
「今度の『マタイ受難曲』で、お前が表現しなければならないのは、この「静寂」なのだよ。これをとことん描き  
切るんだ！」

と、語りかけているように・・・。

その「静寂」の先には、真の救世主でなければ決して成し得ない「癒し」と「救済」があるのだから。



# マタイはドラマだ

今村 陽子

今回皆様へ聴いていただくJ. S. バッハのマタイ受難曲とは新約聖書マタイによる福音書の26章と27章の部分を幹として合唱曲、独唱曲などが加わって構成された音楽劇と言えるでしょう。

福音書26章はイエスが十字架に架けられる2日前のイエスと弟子たち、ユダヤ人の祭司や長老たちの状況が語られます。地の文は福音史家の役を担うテノールの独唱者が語ります(節をつけて)。登場人物はイエス、弟子たち、弟子のユダ、ペテロ、女弟子、祭司長たち、長老たちであり、複数の登場人物の言葉は合唱が、単一の人物は独唱者が受け持ちます。場面は8つに展開され各々の場面の意味合いを深めていく感じでコーラル(合唱が受け持つ)、独唱者による語りやアリアが挿入されます。第1部は弟子たちがイエスを見捨てて逃げてしまうところまでで聖書の物語は終了し、コーラルの主旋律(ソプラノと児童合唱が受け持つ)から編曲したコーラルファンタジーと呼ばれる壮大な曲で締めくくられます。尚、第1曲は全体の序曲、および1部の終曲と対応する内容となっています。

1部の構成をかいつままでお話しましたが、現代の映画やテレビドラマにも通ずるような手法をバッハは使っています。たとえばイエスの登場場面では弦楽器による背景音があります。また移動を表すところでは、音階が聞こえてきたり、眠りの内容ではまどろみのテーマを使用しています。歌われている内容とともにこれらにも気を留めてみるとおもしろいと思います。

第2部は福音書26章の残り大祭司の館でイエスの裁判が行われるところから始まります。弟子のペテロやユダ(27章)も登場しますが、1部で語られたことが伏線となりそれぞれの結末を2部で明らかにしているものと読めます。しかもそれぞれの場面に脇役が加わり描写は一層具体的になります。

27章はさらにローマ総督ピラトが登場し、十字架刑に至る情景が次々と語られます。この部分では付点のリズムで象徴される鞭打ちのテーマを随所に耳にするでしょう。そしてイエスは死を迎えますが、驚きの展開が待っています。最後のアリアも復活を期待するメロディに思えますが、最終曲は安息を静かに祈る余韻をもって終了します。

物語の構成、背景音、〇〇の主題、挿入曲など現代の映像劇との類似性を感じながらも、音のみで表現する世界です。人間世界の不条理、弱さ、慰め、救いなどが皆様へ伝われば、「マタイはドラマだ」と受け止めていただけるのではないのでしょうか。

更にマタイ受難曲の構成のおもしろさは2つの合唱団、合奏団の組み合わせでできていることです。聴覚的には右から、左から、全体からと立体的に認識されます。合唱団は歌う部分をすべて厳密に分けているわけではないので(本日の演奏では)視覚的に2つのグループが見分けにくいかもしれませんが、合奏団では音を出しているか否かは演奏姿勢で明らかでしょう。

基本的には聖書記述で第I合唱はイエスと弟子たち、第II合唱が加わるのはイエスに抗う者たちが登場する場面です。アリア付き合唱はバッハの指定では独唱が第I合唱より、合唱が第II合唱よりとなっていますが、本日の演奏では独唱、合唱ともI・IIに分けておりません。

コーラルは原則的には合唱も合奏もI、IIの全員参加ですが、第10曲のコーラル(イエスを裏切ったのは我々であるの意味合い)、第17曲のコーラル(たとえ死ぬともイエスからは離れないの心境)、ではフルートが加わっていません。同じメロディのコーラルが第37曲(第10曲)、第15曲、第54曲など(第17曲)にありますのでフルートが加わった時と音色、イメージの違いなどを味わってみてください。

聴覚的にも視覚的にもドラマに通ずる要素のあるマタイ受難曲ですので、更に演技を加えたいという試みは行われているようです。しかし本日は日本でのふつうの演奏会形式に字幕などでサポートしながらバッハの音楽を忠実にたどることによりマタイ受難曲のドラマを完成したいと思います。

## マタイ受難曲の13の場面 と 簡単なガイド (詳しい対訳は字幕をご覧ください)

(ガイド制作:河野 周平 原案:村上 裕二)

### 第一部 プロローグ (冒頭合唱)

- No.1 コーラル付合唱 合唱 : 来なさい、娘たちよ、私と共に嘆け  
児童合唱 : おお神の子羊よ、罪無くして十字架の上に屠られた



大作の冒頭に相応しい壮大なコーラル合唱曲です。通奏低音が刻む重々しいリズムが、十字架を背負うイエスの足取りを表しています。二群の合唱が歌い交わす中を、児童合唱による受難コーラル「おお神の子羊」が、あたかも天上からの声のように、清らかに響きわたります。

### 場面 I. 受難告知・祭司長たちの謀議

- No.2 福音史家、イエス さてイエスはこれらの言葉をすべて語り終えると、弟子たちに言った、、、  
No.3 コーラル 心から愛するイエスよ、あなたはどんな罪を犯して、、、  
No.4a 福音史家 その頃祭司長と律法学者、それに民の長老たちはカヤパという、、、  
No.4b 合唱(祭司長や長老達) 祭りの間はやめておこう、民衆の間に暴動が、、、

まずイエスが弟子たちに自らの受難を予告するところから物語は始まります。  
イエスが民衆の圧倒的な支持を得てエルサレムに入城してきたのを目の当たりにして、危機を察した祭司長や長老たちは、イエスを排除すべく策略を巡らします。



### 場面 II. ベタニヤの塗油

- 4c 福音史家 さてイエスがベタニアで、、、  
4d 合唱(弟子達) なぜそんな無駄遣いをするのか?  
4e 福音史家、イエス イエスはこれに気付いて、彼らに言った。  
5 レチタティーヴォ・アルト 愛しい救い主よ、あなたの弟子達が、、、  
6 アリア・アルト 懺悔と後悔は積み深い心をふたつに潰す、、、

イエスの頭に香油を注いだのはマグダラのマリアだといわれています。壺一つが一年分の生活費に相当する程高価な香油でしたので、教団の会計係だったユダを筆頭に弟子達が女を非難しましたが、これがイエスの弔いの儀式の始まりだったのです。

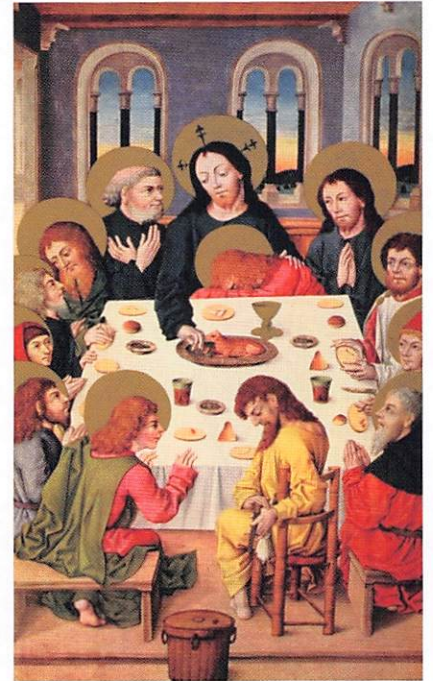
カルロ・ドルチ「マグダラのマリア」





### 場面 III. ユダの背信・最後の晚餐・オリーブ山で

- 7 福音史家、ユダ さて、12弟子のひとりイスカリヤのユダという者が、、、
- 8 アリア・ソプラノ 血にまみれよ、愛しき心よ！
- 9a 福音史家 さて、除酵祭の最初の日、弟子達がイエスに、、、
- 9b 合唱(弟子達) 私達はどこに過越しの食事の用意をしましょうか？
- 9c 福音史家、イエス イエスは言った、「町に入って、、、」
- 9d 福音史家 弟子たちはひどく悲しみ、各々イエスに向かって、、、
- 9e 合唱(弟子達) 主よ、私ですか？
- 10 コーラル 私です。私が償うべきなのです。
- 11 福音史家、イエス イエスが答えて言った。「私と共に、、、」
- 12 レチタティーヴォ・ソプラノ いかに私の心が涙の中を泳ぎ、イエスが私に、、、
- 13 アリア・ソプラノ 私はあなたに私の心を捧げます。
- 14 福音史家、イエス そして彼らは讃美歌を歌った後、オリーブ山に出かけた。
- 15 コーラル 私を認めてください、私の守り主よ、、、
- 16 福音史家、イエス、ペテロ ペテロが答えてイエスに答えて言った。
- 17 コーラル 私はここ、あなたの傍にとどまります。



ハウスブーフの画家「最後の晚餐」

12弟子の一人ユダは密かに祭司長達と通じイエスを裏切る約束をし、銀貨30枚を手に入れます。イエスはモーゼ以来の伝統である過越しの祭りの準備をするよう弟子たちに命じます。最後の晚餐の席でイエスはユダの裏切りを言い当てます。そしてパンと葡萄酒を弟子たちに分け与えますが、これがのちのミサの原型です。それから皆でオリーブ山に出かけ、弟子達全員が自分を見捨てること、そして自分の受難後の復活を予言します。

### 場面 IV. ゲッセマネの祈り

- 18 福音史家、イエス さてイエスは弟子達と共に、ゲッセマネという所へ来て、、、
- 19 レチタティーヴォ・テノール おお痛まし！さいなまれた心は震える。
- 20 コーラル 全てのそれほどの苦しみの元は何か？
- 20 アリア・テノール 私はイエスの傍で目覚めていよう。
- 20 合唱 そうすればわたしたちの罪は消えるだろう。
- 21 福音史家、イエス そして少し進み、地にひれ伏して言った。
- 22 レチタティーヴォ・バス 救い主が父の前にひれ伏された。
- 23 アリア・バス 私は喜んで定めに従い、十字架と苦い杯を、、、
- 24 福音史家、イエス さてイエスは弟子たちの所に来て、彼らが、、、
- 25 コーラル 私の神が思われたことは常に成就される。



エルグレコ「ゲッセマネの園の苦悶」

その後イエスは弟子達と共に、オリーブ山の麓にあるゲッセマネの園にやってきて祈ります。できれば十字架上での受難という苦い杯を遠ざけたいが、それがかなわないのなら自ら飲み干します、と父なる神に祈ります。その間、弟子たちは眠りこけています。

### 場面 V. イエスの捕縛

- 26 福音史家、イエス、ユダ そしてイエスは来て弟子達が眠っていて、その眼は睡魔に、、、
- 27a 二重唱・ソプラノ、アルト そうして私のイエスは今や捕われた。
- 27a 合唱 放せ、止めよ、縛るな！
- 27b 合唱 稲妻は、雷鳴は、雲に隠れてしまったのか？
- 28 福音史家、イエス すると、弟子たちの一人、イエスと共に居た者の一人が、、、
- 29 コーラル付合唱 合唱、児童合唱：おお人よ、お前の罪の大きさを嘆け。



ジョット「ユダの接吻(キリストの捕縛)」

イエスが眠りこけている弟子たちを起こして時が来たことを告げます。そこにユダが祭司長から使わされた武装集団と共にやってきて、イエスに口づけします。それを合図に人々がイエスに手をかけ捕えます。ここで弟子たちの怒りに満ちた叫びを伴う二重唱が歌われます。弟子たちは最初は抵抗しますが、イエスに諫められると皆逃げ出して行ってしまいました。ここで再び児童合唱を伴い「おお、人よお前の罪の大きさを嘆け」という、人の原罪とキリストの恩寵を歌うコーラルファンタジーで第1部が幕を閉じます。

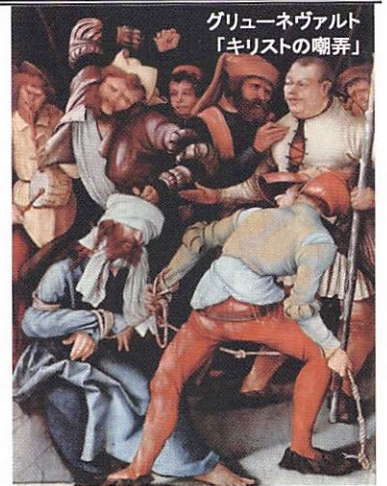
## 第二部 プロローグ（冒頭合唱）

- 30 アリア・アルト ああ、今や私のイエスは去った！  
合唱 あなたの恋人はどこに行ったのだろう？

(本来は説教の後に第2部が始まります。)イエスが連れ去られ、弟子たちも逃げ去った空虚な場所で、シオン(エルサレムの信者達の比喻)が不安げにイエスを探しています。合唱は一緒に探そうと声をかけますが、不安は残ったまま物語が続きます。

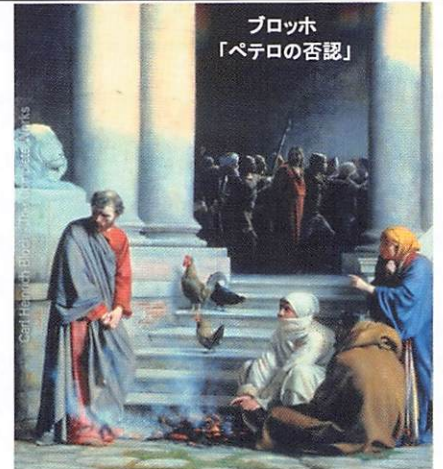
### 場面 VI. 大祭司カヤパの審問

- 31 福音史家 さて、イエスを捕えた者たちは、大祭司カヤパの所に、、、  
32 コーラル 世の中は私を不当に裁いた。  
33 福音史家、大祭司、偽証者 また多くの偽証者が入ってきたが、やはり彼らは、、、  
34 レチタティーヴォ・テノール 私のイエスは嘘偽りに沈黙しておられる。  
35 アリア・テノール 忍耐だ、忍耐だ、たとえ偽りの舌が私を刺しても。  
36a 福音史家、大祭司、イエス すると大祭司が答えてイエスに言った。  
36b 合唱(祭司長や長老達) 彼は死罪にすべきだ！  
36c 福音史家 そして彼らはイエスの顔に唾を吐きかけ、拳で彼を叩いた。  
36d 合唱(祭司長や長老達の数人) 当ててみる、救い主よ、お前を殴ったのは誰だ？  
37 コーラル 誰があなたをこれほど叩いたのか、私の救いよ、、、
- イエスは大祭司カヤパの邸宅で裁判にかけられています。イエスを死刑にする為の証拠探しが始まりますが見つかりません。最後に大祭司の「お前は救い主、神の子なのか？」という問いをイエスは肯定してしまいます。これが証拠となり祭司長達は勝ち誇ったように狂喜して死刑判決を下します。そしてイエスは唾を吐きかけられ拳で殴られます。ここで歌われる義憤のコーラルも印象的です。



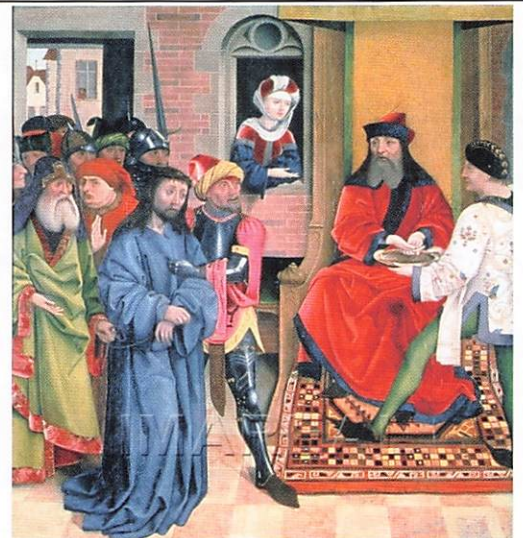
### 場面 VII. ペテロの否認とユダの最後

- 38a 福音史家、女中、ペテロ さてペテロは大祭司邸の中庭に座っていたが、、、  
38b 合唱(そこに居た人々) 確かにお前もイエスの仲間のひとりだ。  
38c 福音史家、ペテロ そしてペテロは呪いつつ誓い始めた。  
39 アリア・アルト 憐んでください、私の神よ、私の涙のゆえに。  
40 コーラル 私は今はあなたから離れるが、きっと私は再び、、、  
41a 福音史家、ユダ 夜が明けると全ての祭司長や民の長老たちは、、、  
41b 合唱(祭司長や長老達) 私たちには関係ないことだ。お前自身で始末しろ！  
41c 福音史家、大祭司 するとユダは銀貨を神殿に投げ込み、、、  
42 アリア・バス 私のイエスを私に返せ！  
43-1 福音史家、ピラト、イエス さて祭司長たちは協議の上、その銀貨で、、、
- ペテロは裁判の成り行きを見守っていましたが、言葉の詭計からイエスの仲間だと疑われイエスを知らないと言います。その悔恨の心情をアルトのアリアが切々と歌います。一方ユダは自分の裏切りのせいでイエスに死刑判決が下ったのを見て後悔し、銀貨を返そうとしますが祭司長たちは取り合いません。それで首をつって自殺してしまいます。



### 場面 VIII. 総督ピラトの審問と死刑判決

- 43-2 福音史家、ピラト、イエス さてイエスは総督の前に立っていた。総督は、、、  
44 コーラル あなたの行くべき道と、あなたの心の患いを委ねよ、、、  
45a 福音史家、ピラト、ピラトの妻  
合唱(民衆) ところで祭りの間、総督は習わしで、民衆の望む囚人、、、  
バラバを！  
45b 合唱(民衆) 十字架に付けろ！  
46 コーラル なんと驚くべき刑罰！良い羊飼いが、、、  
47 福音史家、ピラト 総督が言った。「では彼はどんな悪事を、、、」  
48 レチタティーヴォ・ソプラノ 彼は私たちにあらゆる良い事をしてくださった。  
49 アリア・ソプラノ 愛ゆえに私の救い主は死のうとされている。  
50a 福音史家 すると彼らは一層激しく叫んで言った。  
50b 合唱(民衆) 十字架に付けろ！  
50c 福音史家、ピラト ピラトはもはや手に負えなくなり、かえって暴動が、、、  
50d 合唱(全民衆) 彼の血の責任は私たちと子孫に来てよい。  
50e 福音史家 そこでピラトは民衆にバラバの赦免を示し、イエスを、、、  
51 レチタティーヴォ・アルト 神の憐みを！ここに救い主は縛られて、、、  
52 アリア・アルト 涙が私の頬に流れ落ちなくても、おお、私の心を、、、



シュッテンの祭壇画家「ピラトの前に立つイエス」

当時ユダヤ人には死刑執行の権限が無かったので祭司長たちはイエスをローマ総督ピラトの所へ連行します。ピラトはイエスが義人であることを知っていたので助けようとはしますが、イエスは何も弁明しません。人々はイエスの代わりに極悪人バラバの恩赦を願い出します。人々はイエスを十字架につける、と騒ぎ出し、手が付けられなくなったピラトは自分には責任が無い、勝手に始末しろとイエスを引き渡します。

## 場面 IX. 嘲りとゴルゴタへの道行き

- 53a 福音史家                   そして総督の兵卒たちはイエスを、、、
- 53b 合唱(ピラトの兵卒たち)   ごきげんよう、ユダヤ人の王様！
- 53c 福音史家                   そしてイエスにつ唾を吐きかけ、葦を取って、、、
- 54 コーラル                   おお御頭は血と傷と、痛みと辱めにまみれ、、
- 55 福音史家                   そして彼らはイエスを嘲った後に、上衣を脱がせて、、、
- 56 レチタティーヴォ・バス   そう、まことに私たちの中の血肉は、、、
- 57 アリア・バス               来たれ、甘い十字架、と私は言おう、、、

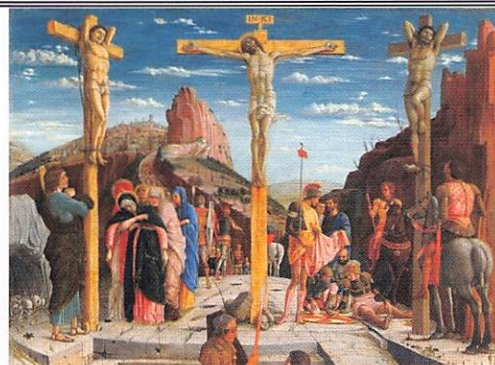
フアン・デ・フアーネス  
「この人を見よ」



イエスは兵隊達に紫の外套を着せられ、茨の冠をかぶらされ、葦の棒を持たされて嘲られます。ここに現れるのが最も有名な受難コーラル「血潮したたる主のみ頭」です。ppで繰り返されるこのコーラルは痛ましい情景の中にありながらも気高きイエスを称える心からの歌でもあります。そしていよいよゴルゴタへの道行きです。

## 場面 X. 磔刑

- 58a 福音史家                   こうして彼らはゴルゴタという所に着いた。
- 58b 合唱(通りかかった人々)   神殿を壊して3日で建て直す者よ、、、
- 58c 福音史家                   祭司長たちも同じように
- 58d 合唱(祭司長や長老達)   彼は他人を救ったのに、彼自身を救うことは出来ない、、、
- 58e 福音史家                   共に十字架に付けられたる人殺し共も、、、
- 59 レチタティーヴォ・アルト   ああゴルゴタよ、呪われしゴルゴタよ！
- 60 アリア・アルト               ごらん、イエスが御手を広げて私たちを、、、
- 合唱                           どこへ？

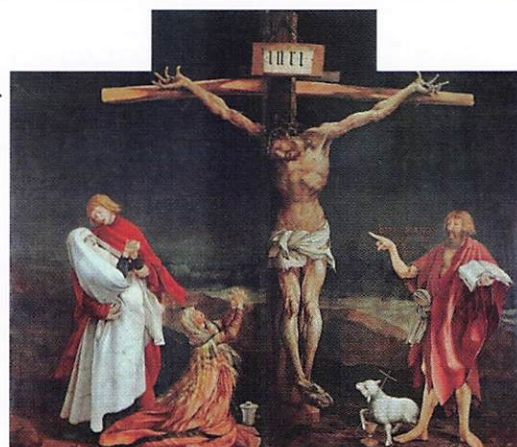


アンドレア・マンテーニャ「磔刑図」

イエスははりつけにされてもなお人々に蔑まれ、共に磔刑にされている殺人犯たちからさえのしられます。アルトソロが「呪われしゴルゴタよ」と嘆きの歌を歌いますが、続くアリアはイエスが人々を救う為に手を広げて待っているのだと歌います。

## 場面 XI. イエスの死

- 61a 福音史家、イエス           さて、昼の6時(現在の12時)から闇が全地を覆い、、、
- 61b 合唱(そこに居た者数人)   これはエリヤを呼んでいるのだ！
- 61c 福音史家                   するとその中の一人がすぐに走って行き、海綿を取って、、
- 61d 合唱(そこに居た他の人々)   止めろ！止めろ！見届けよう、エリヤが来て、、
- 61e 福音史家                   しかしイエスは再び大声で叫んで、息をひきとられた。
- 62 コーラル                   いつか私が死ぬ時も、私から、、
- 63a 福音史家                   すると、神殿の幕が真二つに上から下まで裂けた。
- 63b 合唱(百人隊長と見張りたち)   本当に彼は神の子であった。
- 63c 福音史家                   また多くの女が遠くから見ていた。彼女たちは、、、
- 64 レチタティーヴォ・バス   夕暮れ涼しくなった頃、アダムの墮落が、、
- 65 アリア・バス               私の心よ、自ら清めよ、私は、、



グリューネヴァルト「磔刑図」

イエスはとうとう息を引き取られますが、そこで歌われるのが最後の受難コーラルです。静寂の中に「いつか私が死ぬ時も」とイエスへの変らぬ信頼を込めた祈りの歌です。その直後に天変地異がおき、兵隊達が発する驚きの言葉は人類全体が語るべき言葉に他なりません。

## 場面 XII. イエスの埋葬

- 66a 福音史家                   ヨセフはイエスの遺体を受け取って、きれいな亜麻布に、、、
- 66b 合唱(祭司長やパリサイ人)   総督、私たちは思い出しました。あの人を惑わす者が、、、
- 66c 福音史家                   ピラトは彼らに言った。「番兵を貸そう、、、」

ブロッホ  
「イエスの埋葬」



イエスの弟子であったヨセフが遺体を引き取り自分の持つ新しい墓にイエスを埋葬します。ここで歌われるバスのソロは、私の心の中にイエスを葬ろう、という内容で受難曲の最後を飾るアリアの名曲です。イエスが神の子であることが明らかになったにもかかわらず、長老達はピラトの力に頼って小細工をします。

## 場面 XIII. 安息

- 67 レチタティーヴォ           今や主は憩いにつかれた。
- 合唱                           私のイエスよ、お休みください！
- 68 合唱(終曲)               私たちは涙にくれひざまずき、御墓の中の、、、

アルク・アン・パロア  
サンマルタン教会  
「キリスト埋葬」



マタイによる福音書の言葉が終わったあとに演奏される2曲は弔いの言葉であり、また子守唄でもあります。バス、テノール、アルト、ソプラノのソリスト達が受難曲中で演じた役割に相応しいねぎらいの言葉をかけるのに対し、合唱は「私のイエスよ、お休み下さい！」と繰り返します。終曲はこの受難の物語を締めくくるのに相応しい、二重合唱による大曲です。冒頭合唱同様、二群の合唱が歌い交わります。最後の小節に現れるフルートによる七度の不協和音とその解決がこの受難曲そのものを象徴していると言えます。

浜松バッハ研究会30周年・演奏活動年譜 (主要コンサートのみ)

1985.12.26	バッハ「クリスマス・オラトリオ」第1～3部	河野周平	山本智子/酒井美知江 座光寺哲/渡部成哉	遠州栄光教会
1986.12.22	バッハ「クリスマス・オラトリオ」第1～3部	河野周平	坂野多巳予/酒井美知江 西垣俊朗/渡部成哉	遠州栄光教会
1988.3.21	バッハ「マタイ受難曲」一部割愛	河野周平	西垣俊朗/渡部成哉/石津真理子 佐藤安子/座光寺哲/平野満彦	福祉文化会館
1988.12.26	バッハ「クリスマス・オラトリオ」第4～6部	河野周平	高田晴代/佐藤安子 座光寺哲/高井 治	遠州栄光教会
1990.10.7	創立5周年記念コンサート バッハ「ミサ曲口短調」	三澤洋史	蒲原史子/寺尾美穂/佐藤安子 西垣俊朗/牧野正人	福祉文化会館
1990.12.16	バッハ「クリスマス・オラトリオ」第1～3部	三澤洋史	佐地多美/寺尾美穂 木下基樹/高井 治	遠州栄光教会
1992.3.22	バッハ「ヨハネ受難曲」	三澤洋史	木下基樹/鈴木徹/クラウス・オッカー 山田美津子/佐藤安子	福祉文化会館
1993.3.21	ヘンデル「メサイア」	三澤洋史	山田美津子/佐藤安子 西垣俊朗/クラウス・オッカー	福祉文化会館
1994.6.12	「無伴奏合唱への誘い」 W.バード「4声のミサ」 J.S.バッハ「モテト BWV225 & 229」	三澤洋史	合唱のみ	遠州栄光教会
1995.1.22	「ニューイヤーコンサート」バッハ名曲選他 第1部・ヴィクトリアとシュッツのモテト 第2部・J.S.バッハのモテト BWV225 第3部・合唱によるJ.S.バッハの名曲 第4部・J.S.バッハの教会カンタータより	三澤洋史	合唱のみ	遠州栄光教会
1996.2.18	創立10周年記念コンサート バッハ「マタイ受難曲」全曲	三澤洋史	頃安利秀/渡部成哉/山田美津子 佐藤安子/小田 薫/長谷川顯	アクト中ホール
1997.2.16	バッハ「マニフィカート」 モーツァルト「レクイエム(バイヤー版)」	三澤洋史	田村麻子/小田 薫 西垣俊朗/長谷川顯	アクト中ホール
1998.4.5	バッハ：BWV227、BWV106、BWV131他	三澤洋史	小田 薫 /西垣俊朗 /長谷川顯	福祉文化会館
2000.2.13	バッハ「ミサ曲口短調」	三澤洋史	藤崎美苗/永島陽子 西垣俊朗/長谷川顯	アクト中ホール
2000.12.29 - 2001.1.8	ドイツ演奏旅行	三澤洋史	藤崎美苗/山下牧子 望月哲也/初鹿野剛	
12.31	ドルンハイム バルトロメ教会 (バッハが結婚式を挙げた教会) アルンシュタット バッハ教会 (バッハが最初に職を得た教会) 1.1 アイゼナハ ゲオルグ教会 (バッハが洗礼を受けた教会) 1.2 エアフルト シャウシュピールハウス (バッハ一族の本拠地) 1.3 ナウムブルグ ヴェンツェル教会 (バッハが理想とするオルガンが現存) 1.4 ハレ マルクト教会 (ヘンデルが学び、バッハの息子が活躍) 1.5 ライプチヒ 聖トーマス教会 (バッハが晩年の27年を過ごした聖地) 1.6 ライプチヒ 聖トーマス教会 (バッハが晩年の27年を過ごした聖地)		モテト6番奉納演奏 シルベスタ・コンサート出演 モテト6番 BWV171 新年礼拝にてクリスマスオラトリオ4部の一部を演奏 「口短調ミサ曲」演奏会開催 モテト6番奉納演奏 「口短調ミサ曲」演奏会開催 木曜日のモテトミサ演奏担当 モテト6番、BWV171 金曜日のモテトミサ演奏担当 モテト6番、BWV65	
2001.4.22	バッハ「復活祭オラトリオ」BWV249 カンタータBWV80、モテトBWV228 & 230	三澤洋史	藤崎美苗/永島陽子 西垣俊朗/初鹿野剛	アクト中ホール
2003.2.23	バッハ「ヨハネ受難曲」	三澤洋史	西垣俊朗/小原浄二 藤崎美苗/永島陽子/初鹿野剛	アクト中ホール
2005.2.23	創立20周年記念コンサート バッハ「マタイ受難曲」	三澤洋史	植木紀夫/長谷川顯 藤崎美苗/永島陽子/初鹿野剛	アクト中ホール
2006.12.23	バッハ「クリスマスオラトリオ」第1～3部	三澤洋史	大谷知佳子/朴 瑛実 西垣俊朗/西垣俊紘	カトリック浜松教会
2007.11.10	「とってもBachな午後をあなたに」 バッハ [カンタータ140、147 ミサ曲A-Dur]	三澤洋史	飯田みち代/渡部菜津美 神田豊壽/塩入功司	福祉交流センター ホール
2010.1.17	創立25周年記念コンサートNo.1 ヘンデル「メサイア」	三澤洋史	國光ともこ/三輪陽子 大槻孝志/初鹿野剛	アクト中ホール
2010.12.23	創立25周年記念コンサートNo.2 クリスマスコンサート バッハ[マニフィカート Es-Dur] 他	三澤洋史	大谷知佳子/三輪陽子 西垣俊朗/河野真剛	カトリック浜松教会
2012.10.20	浜松のバッハ40年記念 バッハ「ミサ曲口短調」	三澤洋史	國光ともこ/三輪陽子 畑 儀文/初鹿野剛	アクト中ホール
2015.4.19	創立30周年記念コンサート バッハ「マタイ受難曲」	三澤洋史	畑 儀文/大森いちえい 國光ともこ/三輪陽子/塩入功司	アクト中ホール

# 合唱団メンバー募集

今後の練習予定曲目

J. S. バッハ 「モテット1番」  
「クリスマス・オラトリオ」  
モーツァルト 「レクイエム」など

浜松バッハ研究会

練習日：毎週土曜日 19:00~21:30

会場：浜松市東区 積志協働センター

会費：月額 2,500 円

連絡先：河野周平 ☎053-585-3364

<http://music.geocities.jp/hamamatsubach/>

豊橋バッハアンサンブル

練習日：毎週金曜日 20:00~22:00

会場：豊橋市前田中町 新川小学校

会費：月額 2,000 円

連絡先：安井研一 ☎0532-47-0676

<http://www.geocities.jp/bach0532/>

このコンサートに ご協賛・ご支援いただいた方々

浜松オンコロジーセンター 様

秋山損害保険事務所 様

臼井 溢 様

岡部 比呂男 様

川島 順三 様

田中内科クリニック 様

松井 睦夫 様

伊藤 以知郎 様

内山眼科クリニック 様

かわい歯科クリニック 様

児玉 久司 様

田村 滋治 様

吉川 紀彦 様

皆さまからの温かいご支援に対し、会員一同心から御礼申し上げます。

# なかざわ ようちえん

自然・食育・表現活動

☆H28年度から保育園部(0,1,2才米浜松市認可)  
ぬ-ぬ-すがスタートします!! ☆

〒430-0904 浜松市中区中沢町58-9

☎ <http://www.nakazawa.ed.jp>

TEL  
053-471-0497

